

K A W A K A M I D A M 2007  
川上ダム通信 2月号

独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所  
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL : 0595-52-1661 (代)  
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

**40年間の心情を訴える！！**  
～川上ダム対策委員会協議会が国交省等に要望～

平成19年2月23日(金)に古川代表を団長とした川上ダム対策委員会協議会が、国土交通省近畿地方整備局及び独立行政法人水資源機構関西支社に対して、川上ダム本体工事の早期着工について要望をされました。

要望では、苦渋の決断をし父祖伝来の住み慣れたふるさと「川上」の地を離れることを決断したにもかかわらず、いまだに本体着工の目処がたっていないことが残念でならない。悲願であった満面の川上ダムの湖を臨むことなく一人二人と不帰の客となっており、早期の本体着工を一日千秋の想いでいる。断腸の想いで決断した川上の住民一同の想いを重く受け止めて、一日も早い本体工事の着手に向けて進めて欲しいと述べられました。

これに対して、近畿地方整備局の谷本河川部長が、一日も早く川上ダムを法的に位置付けられるよう進めますと応えられました。

川上ダム建設所といたしましても、皆様の想いに応え、地域の安全・安心を確保するために、なお一層努力していく所存です。

【第一用地課長 河田洋弥】



要望の様子

**伊賀市長、川上ダム周辺山林を視察**  
～第5回 伊賀市長との懇談会を開催～



視察の様子

川上ダム建設所では、顧客のニーズを的確に把握し、より良いサービスに努めるため、伊賀市長との意見交換会を定期的に行っています。

平成19年2月1日(木)の5回目となる伊賀市長との懇談会では、川上ダム周辺山林を今岡市長に歩いて踏査していただき、関西支社長、副支社長、恒吉所長を含めて将来の山林管理等に向けた意見交換等を行いました。

このように、川上ダム建設所では水資源機構の経営方針である「公魂民才」の理念を発揮して、顧客のニーズに応えていきたいと考えています。

【総務課長 上村信幸】

# オオサンショウウオ調査・保全検討委員会を実施

平成19年2月19日(月)、「第11回川上ダムオオサンショウウオ調査・保全検討委員会」を実施しました。委員会では、事務局から、平成18年12月までに実施したオオサンショウウオの生息確認調査や保全検討の結果等について報告しました。また、これらを踏まえて立案した「平成19年度調査および検討の計画(案)」について、審議していただきました。

審議の結果、平成19年度の調査計画については承認され、調査の実施に当たっては、細部について各委員の指導・助言を受けて進めて行くこととなりました。

川上ダムでは、今後も、委員会の指導・助言を得ながら、調査・検討を実施し、適切な保全対策を行っていきます。



委員会の様子

【環境課 古賀勝之】

## 工事の現場に興味津々！ ～橋の見学会を実施～



見学会の様子



上野農業高校のみなさん

平成19年2月12日(月)に地域のみなさんに川上ダム建設事業を直接見てもらうための現場見学会を開催しました。今回見てもらうのは橋の架設状況です。当日は、快晴にも恵まれ、計73名の方々が現場見学会に参加していただきました。橋の長さ107m、鋼材重量約314tもある橋が実際に送り出されていく状況を見た参加者のみなさんからは、「スケールの大きい工事で大変驚いた」「完成したところを早く見たい」といったご意見をいただきました。

また、2月14日(水)には上野農業高校の環境土木科の先生、生徒計27名が授業の一環として現場見学に来ました。生徒のみなさんは初めて見る光景に興味津々な様子で、活発な意見交換ができました。

橋桁の送り出し作業は2月12日～14日までの計3日間の作業を無事終了いたしました。

【工事課 田中幸志】



4号橋送り出し状況

## 伊賀市議会川上ダム・下水道対策特別委員会で説明

2月16日（金）に伊賀市議会「川上ダム・下水道対策特別委員会」が開催されました。委員会では、出席を求められた恒吉所長から、川上ダムの現状と課題等について、特に平成19年度は川上ダムの推進に向けて法手続きを進める必要があることを説明したところ、委員からは「議会としても川上ダム進捗にむけて行動できることはないか検討したい」等の発言もありました。

今後とも川上ダム事業の推進に向けて、伊賀市議会にも機会あるごとにご説明をし、連携を図っていきたいと思います。 【工務課長 北牧正之】

川上ダムの現状と課題  
19年度の展開について

2007. 2. 16

水資源機構



## ～古山長寿社会教室、川上ダム上流高尾地区対策委員会の方々が現場視察～

2月20日（火）に古山長寿社会教室の22名の皆様が、現場視察に訪れ、事業説明のあとオオサンショウウオ保護池等を視察されました。

また2月23日（金）には川上ダム予定地上流の高尾地区の16名の皆様が川上ダム現場視察に来られました。



事業説明の様子

事業説明や三重県からの道路工事計画説明のあと、ダム建設予定地、道路工事現場等を視察されました。



オオサンショウウオを見学する様子

今後も現場視察などを通じて川上ダム事業を地域の皆様にお知らせしていきますので、ご理解ご協力をお願いします。【副所長 青山太洋】

### 第8回

## ちよつとオオサンショウウオ！

### 幼生調査

自然の川では、オオサンショウウオの卵は岸边などの産卵巣穴の中で10月中にふ化します。ふ化した幼生は、しばらく巣穴の中に留まって、翌年の1月から3月頃に一齐に川の中へ出て行きます。巣穴から川へ出た幼生は、巣穴の下流の植物の間や、川底に溜まった落ち葉の中などに隠れるので、幼生が見つければ、その近くに産卵巣穴があるという目印になります。

川上ダム建設所では、幼生の分布の状況、個体数や全長などを調べるため、1月末から2月初めにかけて、前深瀬川と川上川で幼生の調査を行いました。

この調査により、多数の幼生と、新たに数箇所の産卵巣穴を確認しました。

(つづく)

【環境課長 大村朋広】



幼生調査で確認したオオサンショウウオの幼生（全長4～5cm）(H19.1.29撮影)

## 建設所紹介⑥ 《工務課》

工事の検査、営繕、安全を担当している西川英之です。

道路工事の設計積算、予算を担当している坂本博紀です。

道路工事の設計積算を担当している吉武一夫です。



現場技術員の小林信勝です。

道路工事の設計積算を担当している冨行穂です。

予算を担当している霜田晴行です。

工務課長の北牧正之です。

### 連載企画

## 創作『阿保千方湖物語』

### 《第⑥話その1 紀友雄の勝利》

五万の兵は、いつしか半分に。悔しさに煮え立つ思いの紀友雄は、「このままでは朝廷に顔が立たぬ。しばし兵たちを休ませて出直すことにしよう」と軍勢を一時引き上げました。そして兵の数を増やし再び奇襲をかけました。

敵の姿が消え、少し油断していた千方軍は不意をつかれ、じりじりと後退。数々の戦術を使い果たしていたので、「仕方あるまい。敵をふりきるため三国が嶽に向かおう」と、険しい峯の上に造られた山城に立てこもることにしました。

「ええい、今度は深い谷、道なき峯が相手か。これでは兵を進めることができぬ」。容易に近づけぬ紀友雄は、じだんだを踏みました。とって千方たちも、「さて、あのような大軍を、ここからいかに攻められようか」と反撃のしようがないのでした。 (つづく) [川上ダム建設所編集]

## EVENT

### 兼好遺跡公園の梅

『徒然草』で有名な吉田兼好が葬られた地として現在は兼好遺跡公園となっており、公園内に梅が咲き、開花シーズンは賑わいます。

○見頃／2月下旬～3月上旬

○場所／兼好遺跡公園（兼好塚）  
〈伊賀市種生〉

### 編集後記

昨年の12月号でお知らせしました交通安全標語を印刷したバッジが完成しましたのでご紹介します。

このバッジを職員一人一人が身につけることにより、交通安全啓発活動を行っています。今後も、川上ダム建設所では交通安全啓発のための取り組みを積極的に行っていきたいと思っております。

〔広報誌発行事務局〕

編集長 恒吉 徹 (川上ダム建設所長)

デスク 上村 信幸 (総務課長)

〃 北牧 正之 (工務課長)

通信記者 武村 剛泰 (総務課)

〃 立石 浩行 (調査設計課)



☆☆☆皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。ハガキやメール等でどしどしお寄せください。☆☆☆